

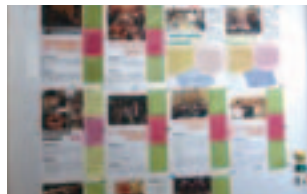


大雪の影響がまだ色濃く残る平成30年2月22日。我々青年部会社チカラ取材班は、福井市米松にあるOOKABE GLASS HD株式会社（以下オーカベガラス）様を訪問しました。オーカベガラス様は、ガラスや鏡を中心としたECサイトを運営される一方で、端材や会社の遊休資産を活用する「AGERU.JP」など新しいサービスにも取り組まれています。大壁勝洋社長にこれらの取り組みの背景について取材してきました。

# 社員とともに未来を拓く。 強靱な組織に向けた飽くなき挑戦！

社員間の関係性を  
深めていくために。

業務の拡大に合わせて増えてきた社員をまともな力をあわせていくためには何が必要か。そのための取り組みの一つが、選ばれた3名の社員が社長を交えた夕食会を企画する「Happiness Dinner」。食事という楽しさを通じて社員間のコミュニケーションを活性化させる、知らない者同士が一緒になるよう対象者はあえてくじ引きで選ぶなど、社員同士がお互いを知るための仕掛けから大壁社長の組織開発にかける熱い思いを感じました。

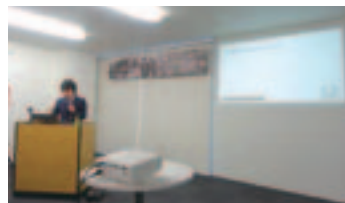


より深く自社を  
理解するために。

コミュニケーションの活性化と合わせて力を入れられているのが、自社の事をより深く知る取り組みでした。その一つがPANDAシステム。自社のルールや商品知識など社員が知っておくべき情報をクイズ

の形でまとめ、それに回答することで自社に対する理解を深める取り組みです。クイズ自体も社員が作ることで自社や自分の仕事を改めて考える場にも繋がっているようです。社員の中に

ある知識は指標化できない会社の力。見せていただいた膨大な問題数から、この蓄積が組織の強みに繋がるのだと感じました。



まとめ

「会社にとって利益は大事。でもそれは社員の腹に落ちるのか。目指しているのは社員にどれだけ資産を残せるか。それが組織開発での成功に繋がると思っています。」そう語った大壁社長の想いはオフィスに貼られている掲示物や社員の方の笑顔の中にしつかりと根付いていました。さらなる改善を目指す大壁社長とそれに対して想いを理解し、ともに歩もうとする社員の方の姿は、我々経営者に大きな刺激となりました。



代表取締役  
大壁 勝洋 氏

若手の社員にどんどん権限と責任を与えて、いろんな取り組みをさせていること。かなり社長の懐の広さを感じました。組織構築の取り組みは実践させていただきたいと思いました。

ふくい総合法律事務所 小前田 宙

## 参加者の声

顧客に卸したガラス製品が、その顧客によってどんな形になったのかを写真に撮ってもらいコンテストを実施する。そのことによってただ顧客に卸して「ハイ終わり」という関係ではなく、その顧客が繰り返し購入してくれるリピーターになれる関係性を築いていると感じました。ハビネスディナー、ドリームフライデー、CSアンケートハガキランキングなど、従業員を大事にされていることが伝わってきました。

(有) サイトー電器 齋藤 孝大

ふくい  
会社チカラ  
取材班  
株式会社 廣部硬器 編



春の到来を感じ始めた平成30年3月2日。我々青年部会社チカラ取材班は、福井市深谷町にある株式会社 廣部硬器様を訪問致しました。廣部硬器様といえば、警察紋章で全国シェアNo.1を誇ることで有名ですが、一方で「スイッチ×タイル」や「デニム表札」などの新しい取り組みにも注目が集まっています。それらの取り組みについて、営業企画の廣部すぐ里様に取材してきました。

技術、素材、そして新しい発想で、  
「やきもの」の可能性に挑戦！

品質を追求する  
職人の姿勢。

取材中、最も印象に残ったのが、高い品質をどこまで追求する姿勢です。ダイヤスタイト紋章を製作する8つもの工程の中で、どうしても乾燥や本焼きによるひび割れが生じてしまい、直径1m近くの大きいものになると10個製作しても完成品として出荷できるものは1個程度という歩留率だそうです。妥協を一切許さないその職人気質な姿勢が警察紋章全国シェアNo.1に結びついていることを製造現場から感じました。また特許をあえて取得しないことで、独自の技術を非公開にして守り続ける、中小製造業が対抗していく凛とした姿勢を感じました。



新しい発想で「やきもの」の可能性に挑戦！

一方で現在、一般消費者向けの商品にも力を入れています。「スイッチ×タイル」や「デニム表札」など商品を

開発シクラフト  
マーケットやイン  
ターネットで販売  
しています。お客  
様の中には、「よう  
やく欲しかった商  
品に出会えた！」  
という声もあり反  
応も上々だそうです。また、昨年は  
XSCHOLのパートナー企業と  
しても参加し、県外の若者と新しい  
取り組みを考えたり、商工会議所の  
合同プレスリリース発表会を通じて  
新商品の発表を行うなど、新しい発  
想で「やきもの」の可能性を追求して  
います。



まとめ

取材を通して感銘を受けたことは、ダイヤスタイト紋章のような独自技術の伝承を進めながら、同時に、若い人の発想も取り入れ新商品の開発を進めていく。「残すべきもの」と「変わるべきもの」の両輪を力強く回していく姿です。青年部の中にも廣部硬器様と同じように、事業承継や技能承継に取り組んでいる企業が多くありましたが、今回の取材を通じて参加した我々にとっても大いに参考になりました。

参加者の声

小さな事にも妥協せず、いいものを造る努力がひしひしと伝わってきました。品質向上に向けた取り組み…、製作工程一つ一つが品質第一の考えで取り組まれていました。

(株)石本石材 森下 峰雪

職人仕事という点では、弊社も同じで、誰もやらないような手間をかけていくことでクオリティを生み出しているという点では、共感、その一点突破で市場での差別化も可能という点。廣部硬器さんの家族経営のあたたかさみたいなを感じられた。従業員さんや社長たちの説明では自分たちの仕事に対して愛情が感じられました。いい雰囲気の会社の空気感でした。ありがとうございました～。

(株)デザインスタジオ・ビネン 坂田 守史



営業企画  
廣部 すぐ里 氏